

事業所自己評価・ミーティング様式		実施日	平成 30 年 1 月 23 日 ( 14 : 00～14 : 20 )			
3. 日常生活の支援		メンバー	主任1名 常勤職員1名 パート職員4名 送迎担当者1名			
◆前回の改善計画に対する取組み状況						
個人チェック項目		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか？	5人	7人	1人		13人
前回の改善計画		日常的支援として、日々の体調管理（バイタルデータ）を柱として記録を残す。対応に関しては、異常への気づきが重要な為、「気付きノート」への記入と情報の収集（傾聴と対話）を軸として行う。 また、個々のニーズに対応できるよう、職員ミーティングにて情報を共有し実行することで支援に努める。				
前回の改善計画に対する取組み結果		日々のかかわりの中で、きづいた事は「気付きノート」を活用し、小さい事でも記入を行い、職員・家族への相談を始め、スタッフ間でも日常的に話し合う事で、状況に応じて良い支援をする事が出来た。				
◆今回の自己評価の状況						
確認のためのチェック項目		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	本人の自宅での生活環境を理解するために「以前の暮らし方」が10個以上把握できていますか？		8人	4人	1人	13人
②	本人の状況に合わせた食事や入浴、排せつ等の基礎的な介護ができていますか？	5人	7人	1人		13人
③	ミーティングにおいて、本人の声にならない声をチームで言語化できていますか？	4人	7人	2人		13人
④	本人の気持ちや体調の変化に気づいたとき、その都度共有していますか？	5人	8人			13人
⑤	共有された本人の気持ちや対象の変化に即時的に支援できていますか？	5人	7人	1人		13人
できている点		バイタルチェックを基に利用者のその日の体調管理の方針を朝礼で示し、それに添いながら動く事が出来ている。 体調の変化については早期発見、早期対応、病院受診の流れまでが適切に支援出来ている。				
できていない点		排泄介助では失敗もあり、衣服を濡らしてしまう事もあった。 利用者様の以前の暮らし方の状況を10個以上は、把握する事が出来ていない。家族と別居の場合は特に不明な点が多い。				
次回までの具体的な改善計画		以前の暮らし方については、たくさん把握できるよう、利用開始日までの生活の状況や個人の物語の聞き取りをしっかりと行う。 より多くの情報を得る為に情報収集の方法、コミュニケーションの取り方（接遇）について学ぶ機会を設ける。				